

たが、1度してみるとそれ程のこともないことがわかり、献血をするようになりました。去年は、3回行ないましたが、これも自分の健康が許す限り、半年に1度は行なってゆき、60歳までに50回は行ないたいと願っております。献血は60歳以上はできないそうです。又健康が維持できなければとてもできないから、献血ができるということは幸福なことであると思います。



八事小学校 PTA 学校保健研修会講演要旨

「八事小児童の歯科保健の現状と将来」

(6才臼歯・12才臼歯の保護育成運動)

名古屋市立八事小学校

学校歯科医 坂井 剛

話し順序

1. 噛む事と脳の発育 (ビデオ)
2. 八事小歯科保健19年の歩み
3. おやつと運動で健康作りを
4. 学校保健と生活環境の改善
5. 高齢化社会と「8020運動」
6. 幼若永久歯の保護育成運動

昭和区歯科医師会40周年記念誌への投稿に当って

(本稿は、昭和47年、會田真先生のご配慮により、学校歯科医となって19年、今年3月で辞任するに当り八事小学校で行った講演要旨です。)

〈文部省のむし歯予防推進指定校〉

昭和47年、学校歯科医に就任以来、第1、第2大臼歯のむし歯の多さに注目し、そのり患者率や他部位の歯牙のう蝕り患者率との比較統計等を行い、名古屋市学校保健会の「教育医学」や日学歯の「日本学校歯科医会雑誌」等に発表していた事が認められ、昭和55、56年の上記指定校に選定さ

れました。

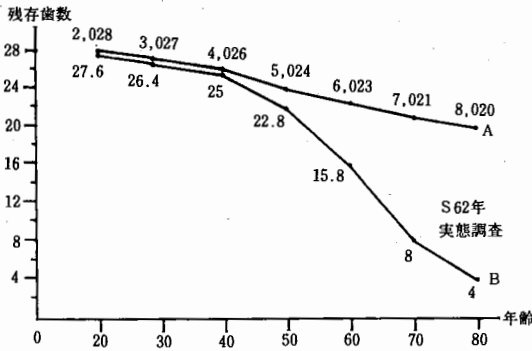
その時、PTAを含めて学校ぐるみの研究活動を行い努力した結果が資料のグラフに示してあります。現在ではう蝕り患者率37.6%、う蝕所有者の方が少数派になり、学校全体がむし歯の予防に熱心に取り組んでいます。ここに到達する過程でいくつかのPointがありましたので、後の参考までに箇条書きにしておきます。

○むし歯予防推進のpoint.

- 1) 学校は一つの目標に向かって確実に前進し、成果をあげる組織であり、学校長の理解を得て、教育目標の一つにできれば最高です。主役は学校であり子供達です。
- 2) 学級指導の中でむし歯予防を教育として進める事です。学級担任は常にその教育効果を成績として評価し、次のステップに進みます。目にみえてり患者率が下る事です。
- 3) 子供のむし歯の9割方は第1、第2臼歯のカリエスです、いわゆる六才臼歯、十二才臼歯の萌出時に狙いをしぼる事でう蝕予防効果は確実にあがります。
- 4) むし歯予防推進活動が全身の健康増進に継がることを理解させ、なわとびやマラソン等全校的な体力作りを同時に行う事で、う蝕予防効果も更に上ります。
- 5) 現在では噛むことと脳の発育との関連が確認されており、学校でも咀嚼やく機能を高めカルシウムを多く摂れる様なおやつや食事の指導を進める必要があります。
- 6) 「むし歯半減運動」等具体的な目標を設定し、低学年児童の6才臼歯の歯みがき指導や、給食後の歯みがき運動を全校で実践する必要もあります。
- 7) 学校歯科保健はむし歯予防から進んで健康作りをテーマとする時代に入る事になり、今後は学校だけでなく学区全体の地域保健或はプライマリーケアの推進に拡大発展させなければならない。具体的には子供達の生活環境の改善を家庭、学校、学区の全域に亘って進めることです。

表1 年代別残存歯数

目標数：A 現状：B



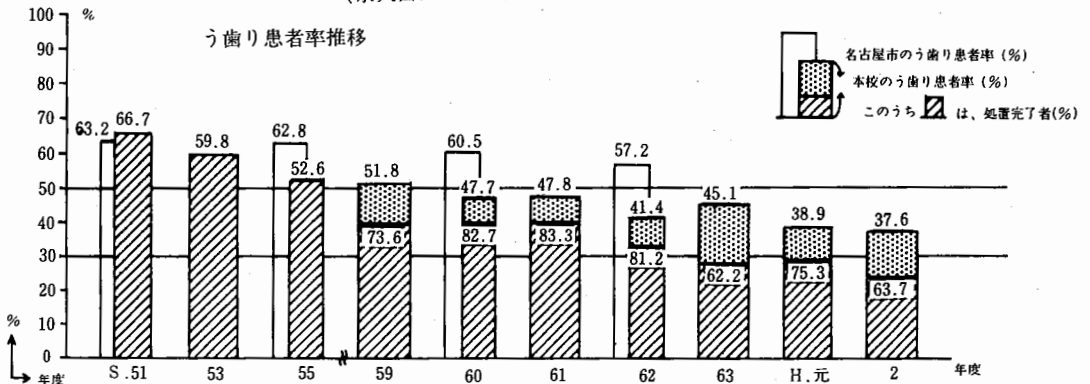
「8020運動」と6才臼歯、12才臼歯の保護育成運動

平成元年から県歯が始めた「8020運動」は21世紀の高齢化社会に対応する国民歯科保健の大目標であり、今後の学校歯科保健の推進にも深く関わっています。「8020」を達成するには、子供の頃のむし歯予防に成功する事が必要であり、その為にはこれまでの学校歯科保健を転換し、的をしぼった予防活動を進めなければなりません。ターゲットになるのは第1、第2大臼歯であり、これの予防に成功すれば子供達のむし歯の9割はなくなり、成人してからの欠損歯は飛躍的に減って「8020」の達成も現実のものとなるに違いありません。「8020運動」に続いて「6才臼歯、12才臼歯の保護育成運動」を提唱し、推進していこうと考えています。

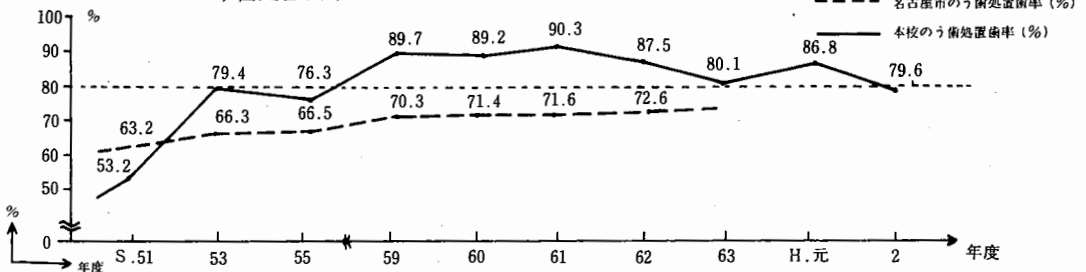
う歯の統計

—各年度定期健康診断の結果—

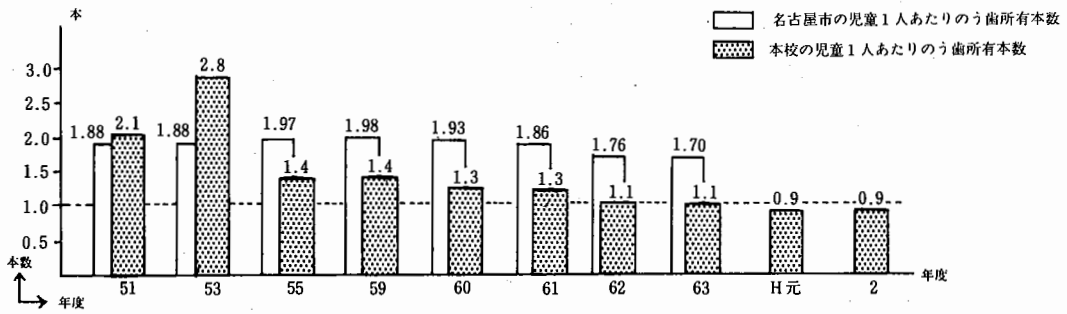
(永久歯について)



う歯処置歯率推移



児童1人あたりのう歯所有本数推移



6年生1人あたりのう歯所有本数推移

